

ごみの減量化について



平山 忠

質問

ごみの減量化は

町 家庭系、事業所系の分別周知

問 ごみの適正処理化について、事業系・家庭系ごみの分別をどう指導しているか。

答 町広報、町ホームページ、ごみの分別事典及び出し方カレンダー、「不適切シール」等で周知している。また事業系ごみは広域クリーンセンター大田原で作成したパンフレットで周知を図っている。

問 分別が一番大切なのは水切りだと思うが、広域クリーンセンター大田原に搬入する場合、重量換算なのか。

答 重量で換算している。可燃ごみは、事業系・家庭系合わせて5年間の平均で、年間約8800トンほど排出される。そのうち、47%が水分である。

問 町全体での分別講習会を開催する考えは。

答 本町では平成27年度から学校の協力を得て、小学4年生を対象に分別方法等の環境学習授業を実施している。また、自治会単位や地域単位で実施している。

できることから
はじめましょう

- 生ごみの水分を切る
- 分別の推進



黒田原地域づくりについて

質問

黒田原地域づくりは

町 全体計画の中での展開

問 黒田原地区の居場所づくりに足湯をつくる考えは。

答 足湯については、多額の費用が見込まれると思われる、現在は設置する考えはない。

問 活性化の拠点として駅前通りを中心に、あずまやのような建物を建てる考えは。

答 足湯を除いた黒田原の活性化については、対応していきたい。

問 居場所があつて、のんびりできる場所を作る前向きな企画は。



現在の黒田原駅前(まつりの様子)

答 日本遺産認定を新たな切り口として、地域活性化を考え、点ではなく面として黒田原に取り入れ、施設整備はお客様を誘導する動線の中で、考えていく。

※「認定された日本遺産について」「健康増進について」などの質問もされています。